

大宰帥大伴 卿、凶問に報ふる歌一首

七九三番

世の中は 空しきものと 知る時し いよよます
ます 悲しかりけり

日本挽歌一首

七九四番

大君の 遠の朝廷と しらぬひ 筑紫の国に 泣
く子なす 慕ひ来まして 息だにも いまだ休め
ず 年月も いまだあらねば 心ゆも 思はぬ間に
うちなびき 臥やしぬれ 言はむすべ せむすべ
知らに 石木をも 問ひ放け知らず 家ならば
かたちはあらむを 恨めしき 妹の命の 我をば
も いかにせよとか にほ鳥の 二人並び居 語
らひし 心そむきて 家離りいます